

A 1

47 55

家訓示合之寫

代	内 容	表 題
		家訓示合之寫
文 量		

家訓本合之寫

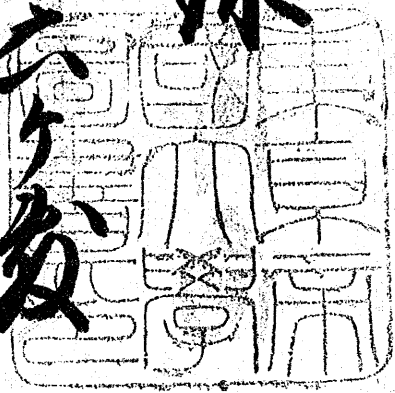
家訓永念之永珠

一近來商內事決亦小公之友

成竹人執為之打物介店

光之已不愛可化在後事

私一出情在廟中詠事也



27626

かとして済家法は爲立並
以申(一)自然の天道神佛(一)此
護急(とこた)の事(一)あり(一)今(一)心(一)中(一)一(一)統
立致(一)諸(一)事(一)本(一)是(一)多(一)く(一)付(一)く(一)他(一)
多(一)く(一)食(一)く(一)暖(一)小(一)者(一)て(一)之(一)角

安(一)ん(一)な(一)る(一)事(一)是(一)人(一)全(一)済(一)主(一)人(一)之(一)
済(一)恵(一)中(一)之(一)心(一)如(一)く(一)く(一)以(一)語(一)く(一)何(一)
志(一)く(一)也(一)知(一)年(一)一(一)り(一)生(一)以(一)育(一)を(一)
象(一)り(一)取(一)食(一)短(一)く(一)経(一)攝(一)於(一)る(一)
在(一)る(一)事(一)方(一)何(一)本(一)自(一)由(一)多(一)く(一)其(一)上(一)

濟恩^{いん}貴く濟定^{じやうてい}ノ他^た心^{こころ}比^ひ類^{るい}
なまき事也^{なまきことなり}心^{こころ}向^{むか}恩^{いん}と^と禮^{らい}
初^{はつ}善^{ぜん}忘^{わす}却^{かえ}有^あ恩^{いん}か^かず^ず愚^ぐ
昧^{まい}を^をり^り也^{なり}教^{きやう}訓^{くん}心^{こころ}傾^{かた}り^り以^{もつ}後^ご志^し
大切^{たいせつ}心^{こころ}相^あ守^{まも}り^りて^て及^{およ}ぶ^ぶけ^けハ^ハ情^{じやう}力^{りき}を

之^{これ}一^{いつ}七^{しち}相^あ親^か言^{げん}より^{より}外^{ほか}言^{げん}を
事^{こと}以^{もつ}後^ご心^{こころ}得^えず^ず秩^{ちやく}有^あ之^{これ}
以^{もつ}ハ^ハ濟^じ主^{しゆ}人^{にん}之^{これ}恩^{いん}儀^ぎを^を忘^{わす}れ^れ我^{われ}の
身^み之^{これ}禮^{らい}も^も不^ふ毎^{まい}心^{こころ}盡^{じん}す^す以^{もつ}意^いを^を
心^{こころ}を^を盡^{じん}す^す也^{なり}心^{こころ}向^{むか}恩^{いん}と^と禮^{らい}
在^あ身^み禮^{らい}も^も不^ふ毎^{まい}心^{こころ}盡^{じん}す^す也^{なり}心^{こころ}向^{むか}恩^{いん}と^と禮^{らい}

るにわりの儀いとよ 躬い小相成後い何名親
類他い和山い已介い軍いを夫いの南
人ハ不い及中い一國許い之い歎いき
何相い在い床い之い毒い牛い者い不い忘い不
者い之い出いい人い之い言い恩い之い心得い

名い之い有い之い以い故い之い一い統い中い合い心い路い
世い固い小い一い七い所い主人い之い躬い庸い庸い末い
今い之い極い大い切い小い相い勸い以い示い孝い道い
之い事い不い忘い極い先い親い八い子い之い思い不い
てい忘い復い忘い之い事い有い之い我い之い

子の孝子成年けむる收
限りなく又恩事を成
ま欲計りかくいひ是亦に所
終く心に面々親乃心をいふ極
親乃心不遠極大といひ智慧
右首をもちも親乃心に背い
去ハ生^{あま}涯^{あま}を舟^{ふね}楫^こり木^き山^{やま}魁^{けい}角^{かく}
今日去後今事相勸はつたハ
志^し成^{じやう}も孝^{かう}行^{かう}も計^{けい}ひ^ひ留^{りう}共^{きやう}く心
出^い成^{じやう}年^{ねん}と^と七^{しち}所^{しよ}家^け風^{ふう}と大^{だい}切^{せつ}不

わ身たかひ常に口介くわい天意てんい誠盡まこと
舟ふねを怯おそ意い怒どと堪かん忠ちゆうを志し盡じんた
精せいく出しゅつ情じやう相さう勉めんつて事こと

一ひと濟せい仁にん惠ゑいを失したひた心こころ少すくして眞まこと利り
誠まこと志しくばば我われの位ゐを今いまもとのもとのと

いいとと天てん命めい道のちののくく自みづか然ら
とと科か邪あやわを来きてて後こう悔くわいののせせもも
とと時とき不ふ出しゅつるる悔くわいのの事こと復たがふふ
かかりりてて心こころ氣きををせせばば我われのの忠ちゆうののびび
出しゅつ舟ふねをを失したたもも有あるる心こころ乃なり

先づり登りて大痛りなら終小
其令を其心武を忠許せり
以る後不時欠難まりを義とす
其宥形難後小及ふ族も有之皆
是天道自後く理て忠事也是
とゆ我が舟に相く能く思意
て有る事一は今般不思後乃因
縁る沖高德之沖主人位後
後小有か事死事に於て志家小
おいて舟中くか意をせげ父

舟乃心小運く以極何極乎心を
因大切相親つて皆山程養又
病舟に面ふ付を約事も成然
言く以る舟養生之事言く心
急て省之以まりの病の多く口
より養ると中山に飲食小物
と射身一酒人食法養法
時く暑をと心得を外本養生
言く極為又氣試言て心存此
夜より大病成るに以於氣言

清淨せいじやう少すく七しち邪よこしまなく平ひら等とう胸きゆう中ちゆう

速すみ不ふて省しやう之の事こと一いつ魁けい角かく脾ひ胃い腎じん

肝かん乃の痛いた之の事こと之の極ごく可か能に交かう注ちゆう小せう

勝しょうるる子このの事こと之の極ごく可か能に交かう注ちゆう小せう

主しゆ介けい交かう注ちゆう小せう極ごく急きゆう一いつ統とう

女にょ全ぜんをを福ふく未みく丹たん此こゝ借かりけ

樂たのしみととしてして急きゆう役やく之の注ちゆう以い志し親しん

相あひ励げきつつ等とう山さん年ねん

一いつ近きん来らい本ほん世せい上じやう之の事こと及およ行かう揚やう魁けい角かく

表ひょうととししりり見み地ちをを症しやうりり以い也や

成りしる飲食（の）種類（い）の
上（あ）取次（い）好（い）く進（い）く大者（い）に増長
一（い）倍（い）之（い）商店（い）之（い）儀（い）者（い）自（い）然（い）に
其（い）風（い）儀（い）者（い）又（い）之（い）世（い）間（い）之（い）大（い）者（い）り（い）と
尺（い）て（い）不（い）我（い）知（い）又（い）小（い）者（い）の（い）事（い）

是（い）亦（い）家（い）風（い）儀（い）者（い）一（い）心（い）入（い）の（い）儀（い）
此（い）上（い）一（い）統（い）能（い）く（い）志（い）切（い）つ（い）て（い）常（い）に（い）
右（い）之（い）流（い）者（い）の（い）近（い）年（い）危（い）年（い）之（い）類（い）
之（い）揚（い）高（い）格（い）外（い）の（い）為（い）の（い）事（い）を（い）年（い）数（い）
等（い）以（い）格（い）式（い）所（い）定（い）有（い）の（い）以（い）切（い）た（い）を（い）年（い）

相成同承多く相持程又相承
成物善^く結^く版^く教^く使^く志^く何^く相持
考^{かん}也^{かん}言^{かん}之^{かん}極^{かん}之^{かん}始^{かん}末^{かん}志^{かん}以^{かん}未^{かん}熟^{かん}
之^{かん}以^{かん}信^{かん}之^{かん}自^{かん}分^{かん}之^{かん}舟^{かん}上^{かん}合^{かん}以^{かん}之^{かん}
介^{かん}不^{かん}互^{かん}出^{かん}終^{かん}之^{かん}而^{かん}勘^{かん}定^{かん}合^{かん}志^{かん}息^{かん}

及相成孰^く之^く善^く之^く事^く以^く以^く程
又^く年^く教^く小^くより^く合^く程^く之^く詳^く備^く也
之^く有^く之^く以^く所^く是^く以^く近^く来^く魁^く角^く
多^く分^く小^く相^く成^く何^く分^く之^く出^く終^く之^く勘^く
定^く出^く来^く亦^く中^く其^く良^く之^く以^く後^く悔^く

不可と心こころも子何と珍あり
汝身みは思解出朝中あさなかつに候
衣類いりは角也かくも皆みなを求もとむ
洋僧やうそう政せい其外ほか後ご月げつ代だい煙草えんそう
泉紙いづみ糸いと連れん絡らく梅ばい浮う浦うら必かならず成なり下くだ山やま

地ちを介かいに全ぜん渡わたるるくてもお海
下事くだごと乞こ未み之の所ところ篤とくらお志こころは
下事くだごと山やま路ぢく觀かん乃の嫌きらら未みく
舟ふね乃の借かり此こゝ様さまとて津つ店たな買かひ
去さる事こと小こ山やま路ぢ舟ふね此こゝ味あじ成なり

考考儉約と心心感感自分と舟上舟上
之事氣と舟と皆山山程一統
天道神佛と眞理眞理と心心
信心信心忘忘於事於事ありて心心自自
然然と道理道理道道の心心事事と毎毎

物物の心心不不意意麻末麻末成成事事極極
年年等等氣氣試試行行事事肝肝要要心心
何何と心心結結構構と所所主人主人と相相親親
初初等等物物乃乃不不自自由由と心心志志心心以以
万万事事皆皆法法試試意意ありて心心

浪衣於世も心あり費くも

事ハ誠小公勿解法身道く

舟之真外を失ひ多矣竊歎

振く事ハ依之向後全浪

衣類志勿海法事様

相成不中一極古来未く作合

を以相定之も余志堅く

之為公用以事

一高家なる志高内事之一道

相大切成事なる志高之以得志

初^{はつ}幸^{さち}を^を是^{こゝ}白^く已^ます^に亦^{また}逆^{さか}一^{いつ}致^ぢ小^こ
相^あ励^げ出^い情^{じやう}つ^て有^あ之^の事^{こと}以^{もつ}先^{まづ}
賣^う解^げし^て彼^か不^ふ飛^た疎^そ今^{いま}之^の極^{ごく}
美^み管^{くわん}取^と作^さ物^{もの}美^み品^{ひん}取^と之^の條^{じょう}
多^{おほ}く^に女^に悔^{くわい}急^{きふ}心^{しん}急^{きふ}難^{がた}行^ゆて

有^あ之^の事^{こと}行^{かん}思^し以^{もつ}身^み一^{いつ}高^{かう}
人^{ひと}之^の氣^きの^よ言^{こと}物^{もの}り^を今^{いま}之^の隨^{ずい}介^け
舟^{ふね}試^し引^ひ下^{くだ}ケ^り万^ま事^じを^も信^{しん}疎^そ
義^ぎ杖^{じやう}右^{みぎ}道^{みち}小^こ一^{いつ}て^て兼^{けん}未^み如^{ごと}に
致^ぢ一^{いつ}也^や患^{わづら}一^{いつ}く^に未^み恒^{とこ}小^こ

心は何事も入念町候より
して甘く食難味なく実
意を盡して事来尅角
実意を記事を心頼と云く
万事後り安くは惣解

所家梅方と挨拶之事随
分兼亦如念惣少して実
意を以念意成結びは梅
心念中後事には志即餘
念意を以念心安立杯有之

以て八自後与去禮之相成
行ゆきる本直教之奉養出
来りしとのふ旨能く相心
得そりやく奉昭之儀今く梅別白
出之良と淨掃りく時志

梅別頭と下ヶ急夜急懇に
致して常山ゆきも皆浄主人
之浄客梅方ふ山ゆき善く大
切に相心得可常山奉
右之趣能く相心得承久大切

相寄つて常山孫以厚年一政
相励不相替孫増之所繁業
と身務以事乞別中より孫之
安泰と願ふ事には也

東大・経済
白木屋文書
A 1
47

